

第IV部門 裏道イメージの解析 ～大阪千林地区を対象として～

大阪工業大学工学部 学生員 ○碓山 智也
 大阪工業大学工学部 樋口 裕樹
 大阪工業大学工学部 正会員 田中 一成
 大阪工業大学工学部 学生員 吉川 眞

1. はじめに

都市のイメージ構造は、歴史的な都市形成の過程と大きく関係しており、特に市街地のイメージには、道の存在が影響している。それは、道には出発地と目的地をつなぐ役割があり、それにともない市街地は発展してきたからである。その中でも「裏道」に着目してみると、裏道には良い面、悪い面が存在し、大通りにはない「おもしろさ」があると考えられる。また、これまで「裏道」という一つの言葉で表しているが、人それぞれイメージする裏道は違うと考えられる。

裏道という存在を具体的に把握し、定義を明確にすることによって、今後の都市計画において、大通りだけでなく近・現代都市計画によって失われてきた裏道を作ることで、空間を楽しませるようなデザインができるのではないだろうか。

2. 研究の目的と方法

本研究では人々が抱く裏道のイメージを把握し、曖昧である裏道の定義を明確にすることを目的とする。研究方法として、裏道の仮説を元にして被験者に実験をおこない、裏道を構成する空間構成要素を抽出する。また、アンケート調査から属性による裏道のイメージの違いを把握し、GIS (Geographic Information System) 用いて、裏道の分類をおこなう。人々の裏道のイメージから性別、年代別に異なる裏道のイメージを見出し、地域にあった裏道の提案へとつなげていく。

対象地区は、建築基準法が施行される以前に住宅地が発展していたこと等から、狭い道が多く裏道が発達している、大阪市旭区千林を対象地区とした。

3. 裏道を構成するイメージ要素の抽出

裏道を構成する要素を把握するため、被験者 21 人に予備調査をおこなった。まず、仮説にあてはまる裏道との写真 10 枚の中から無作為に 2 枚取り出し、「どちらが通りたいか」「どちらが気に入ったか」を選択してもらった。また、その写真を選んだ理由を具体的に答えてもらった。

この予備調査から得られた理由を用いて、裏道を構成している空間構成要素を抽出した。その要素が裏道の指標として適切か判断するため、検定 (t 検定) をおこなった。その後、要素のどの部分を重視しているかを確認した。確認方法は、予備調査で回答してもらった 21 人に前回と同じ 2 枚の写真を示し、片方の写真だけを加工し、同様に「どちらが通りたいか」、「どちらが気に入ったか」を答えてもらう。加工前から加工後で気に入った写真や意見が変化すれば、被験者は加工した部分を重視しており、変化しなければあまり加工した部分は重視していなかったことがわかる。これにより重視しているイメージ要素のランク付けをおこなう。



図-1 予備調査の写真



図-2 写真加工後

Hiroki HIGUCHI, Tomoya IKARIYAMA, Kazunari TANAKA and Shin YOSHIKAWA

sid@cube.ocn.ne.jp

4. 裏道のイメージ分析

性別・年代別での裏道のイメージの違いを把握するために、アンケート調査をおこなった。また、被験者が以前住んでいた場所の情景は今でも強く残っており、その情景の違いによって裏道に対するイメージの違いが出ることを考え、アンケート調査から分析をおこなった。さらに、裏道にはさまざまな形状があると考えられ、それは地域や地区によって特徴が違う可能性もある。そのため、この調査ではアンケート対象を千林地区だけとせず、周辺地域の回答も集めた。サンプル数 139 名に対する集計結果は、単純集計、クロス集計などにより傾向を記し、詳しく分析をおこなった。それにより、性別・年代別の特徴を把握した。

5. 原風景

原風景とは人が幼少期に住んでいた場所、体験した情景が潜在的なイメージとして形成され、その後の場面で頭に浮かび、その際の判断や評価の一因となるような情景のことをいう。原風景は本来個人的なものであり、大自然、住宅地、農村地、都会などの、それぞれの環境の違いがその人独自の原風景を作ると考えられている。本研究では、人が昔住んでいた地域・環境の違いが、裏道のイメージに影響をおよぼしていると考え、分析をおこなった。本研究ではアンケートから、昔住んでいた場所が「都会」「田舎」等と分けることにより、裏道のイメージに違いが出るのかを分析した。

6. 裏道の分類・定義

アンケート結果から、性別、年代別に道の分類をおこないそこから裏道の定義として必要な条件を見出した。分類方法は、仮説を元に撮影した裏道の写真から、性別・年代別の特徴が最も当てはまると考えられる写真を選出した。これにより性別・年代別に対してそれぞれが感じる裏道を明確にしてきた。次に、裏道の定義は、本研究結果から裏道に必要であると考えられるものを選出した。この結果、①「住宅へのアプローチ性」、②「道幅 0.9m 以上 1.8m 未満」、③「①、②を最低限の裏道の定義とし、それに加え、性別、年代別によりそれぞれ異なった定義が存在する」ということがわかった。

以下に、性別・年代別により、異なる裏道のイメージを示した（図-3～図-6）。



図-3 裏道のイメージ
(男性)



図-4 裏道のイメージ
(女性)



図-5 裏道のイメージ
(若年層)



図-6 裏道のイメージ
(高齢層)

7. まとめ

本研究では、裏道という曖昧な言葉をはっきりさせるために、性別・年代の特徴を把握し、定義を導き出した。さらに、性別・年代別にそれぞれの裏道らしさがあることを示すことができた。この「裏道」という言葉に対するイメージの違いが、これまで明らかになっていない裏道のおもしろさを明らかにしたのではではないかと考える。

今後の課題としては、アンケート等のデータ量を増やしより信頼性の向上を目指すこと、データのかたよりを無くすこと等があげられる。今後は、人それぞれの裏道のイメージの違いを利用し、地域の特性を活かした裏道の提案へとつなげていく。

【参考文献】石村眞一：元気のある商店街の形成 千林商店街とその周辺，2004